

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0873900435		
法人名	社会福祉法人 廣山会		
事業所名	グループホーム プルミエールひたち野		
所在地 (電話番号)	茨城県かすみがうら市上土田330-9・10 (電話) 0299-59-0707		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月8日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 17人, 非常勤 6人, 常勤換算	19.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	12 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.0 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神立病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは林や果物畑に囲まれた高台にあり、入居者は季節の移り変わりを感じられる環境にある。ホーム内に入ると、高い天井と広いホールが開放的であり、その中で入居者は寛いだ雰囲気でも過ごしている。また、隣接する同法人の施設との交流や馴染みになった職員の行き来の中で安心した生活を送っている。職員は笑顔を絶やさず、入居者のペースに合わせた生活の支援に取り組んでおり、地域との連携も図りながら運営を行っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で、理念を解り易い表現で掲示するようにとの指摘を受け、詳細な表現にしたものを家族に説明している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長、主任が中心となって作成し、ホーム内の会議にてスタッフにより確認・修正が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在までに運営推進会議は行われていない。今後、ホームから市への働きかけを行う予定となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時の対応、年2回のケアプラン説明会やアンケートの実施により、家族の意見を運営に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の区長、民生委員などとの連携は密に取っており、地域でのイベントの参加や防災に対して、協力体制が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体として「自利利他の実践」を理念に掲げ、ホームでは、素直な気持ちで入居者に接し、ケアに喜びを感じることを目標に置いている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の会議や法人全体の会議を行う際に理念の共有を図っている。また、職員は日々のケアに対する目標を立て、達成に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長や民生委員との交流は密に取っており、信頼関係が築けている。老人クラブとの交流や、施設で行われるイベントに近隣の方も参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成はホーム内の会議の中で、職員の意見を反映しながら作成されており、今後の取り組みにつなげられるよう話し合われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年市町村が合併したため、体制作りが出来ておらず、開催に至っていないが、管理者は推進委員会の役員となっている。	○	今後は、市への更なる働きかけと、ホーム内での準備を進め、早い時期での開催を期待する。

茨城県 グループホームプルミエールひたち野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市からの介護相談員の受け入れを行ったり、支援センターの設置により、市との連携は充実している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	月に1度、写真を送付し入居者の近況報告を行っている。また、介護計画の説明会などを利用して金銭管理や職員の移動などについても報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	各部署の聞きたい事や気になる事をアンケートの項目に入れ、実施した後は結果を集計し、またそれを日々のケアに活かしている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	退職者によるケアの質の低下を防ぐために教育に力を入れている。また、退職などを気にする入居者には説明を行っている。		今後も新人職員や移動になった職員には、積極的な教育を行う事で、入居者が混乱しないケアの提供を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内外部の年間研修が予定されており、内部研修については業務内に組み込まれているため、パート職員も受けられるような体制が作られている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県老人福祉施設協議会や経営者協議会に入会しており交流の場を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空床がある場合は体験入所を行っている。また、同法人のデイサービスや訪問介護を利用しながら入所に至った場合は、入所後もスタッフがホームに足を運び、不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から日常生活の様々な場面で学ぶ機会を作っている。また、入居者の出来ない部分をさりげなく支援する関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの表出が困難な入居者に対しても、表情や仕草などから感じ取れるような関わりを持ちながらのケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から情報収集をしホーム内で話し合いを持ち介護計画の立案を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランノートを作成し介護計画の見直しに活用している。モニタリング用紙などの活用はされていない。	○	介護計画に沿った日々の記録を更に詳細にすることで経過が解り、計画の見直しも行いやすくなると考える。今後、モニタリング用紙の整備など検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内で連携を図りながら緊急ショートステイや入所等を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な協力病院があり、総合病院とも連携が取れる体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで終末期を過ごしたい方のために、介護計画の見直しなど準備をしている段階である。職員も重度化した入居者のケアに積極的に取り組んでいる。		今後ターミナルケアについてのケアマニュアルやホームの方針などについて整備される事で、職員や本人、家族にとって安心したケア提供が行えるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員への「尊厳」「プライバシー」についての教育は徹底して行っている。職員もまた、言葉かけなどに気を配っている。		今後も引き続き徹底した教育を行う事で、入居者のプライバシーが確保できるよう期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが継続できるよう職員は考慮している。レクリエーションも個々にあったものを提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食と味噌汁は入居者とともに作り、和やかな雰囲気の中職員も同じ食事を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間に入浴できる体制にあり、フットケアも定期的に行っている。入浴に対し拒否的な入居者に対しても希望に沿った支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は洗濯たたみや食器の片付けなど、日常の中での役割を職員とともに楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	桜並木や果物畑のある散歩道を歩く事が習慣になっている方も多。外出や日用品の買い物なども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族に了解を取り玄関の開閉は職員が行っている。現在開放できるよう検討中である。	○	入居者のアセスメントを行い行動の把握をする事で、鍵を掛けない時間を作れるよう検討が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。また、倉庫に食糧や水など備品の整備もされている。地域の方が避難場所としてホームを利用できるような体制作りも検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、医務課との連携を取りながら支援をしている。苦手なものは代替できるよう、厨房で把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花が植えられ訪ねやすい雰囲気になっている。ホールには観葉植物やソファが置かれ、寛げる空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしてきた物や使い慣れたものが置かれている。畳が置かれた居室もあり、その人らしい空間作りがされている。		